

要旨

【目的】第一に、帝王切開既往女性の経膣分娩試行（trial of labor after cesarean delivery, 以下 TOLAC）を行っている医療施設における帝王切開既往女性の次子分娩の転機を明らかにすること。第二に、TOLAC 適応者の次子分娩様式の選択に影響する要因と選択の実態を明らかにすること。

【方法】TOLAC を行っている 1 か所の医療施設にて、過去 3 年間の帝王切開既往女性の医療記録から、基本特性と前回帝王切開に関する体験、分娩様式の選択に関する記述、妊娠・分娩の経過についてデータ収集した。分析は、次子分娩様式の選択に影響する因子を検討するために χ^2 検定・t 検定およびロジスティック回帰分析を行った。質的データに関しては、Berelson の内容分析法を参考にした。

【結果】全帝王切開既往女性の 94.7%が TOLAC の医学的要件を満たし、そのうち 75.6%が TOLAC を選択していた。TOLAC を行った者のうち 72.3%が経膣分娩となった。TOLAC を行ったが緊急帝王切開となった者の理由は、分娩停止(45.5%)、過期妊娠(18.2%)、前期破水、胎児機能不全、切迫子宮破裂、妊娠高血圧症候群であった。TOLAC の医学的要件を満たさず、選択的帝王切開となった者は全帝王切開既往女性のうち 5.3%であった。その理由としては、帝王切開既往回数が 2 回以上であることが 77.8%を占め、その他は子宮筋腫合併、呼吸器・循環器合併であった。TOLAC 適応の女性が次子分娩様式を選択する際には、[前回帝王切開の体験]、[TOLAC という分娩様式の認知]、[TOLAC に対する認識]、[帝王切開に対する認識]、[家族の存在]、[死産の経験]が影響していることが明らかになった。その結果、TOLAC 選択者と選択的帝王切開選択者に分かれたが、TOLAC を選択した者の中には、TOLAC を切望する者と、安全性優先の上で TOLAC をする者がいることが明らかとなった。

【結論】TOLAC を行っている医療施設において、帝王切開既往女性の 9 割以上が TOLAC を希望していた。帝王切開既往女性のうち TOLAC 適応者は[前回帝王切開の体験]、[TOLAC という分娩様式の認知]、[TOLAC に対する認識]、[帝王切開に対する認識]、[家族の存在]、[死産の経験]について、産婦個人の体験を踏まえながら、それぞれのリスクとベネフィットを考慮して分娩様式の選択をしていることが明らかとなった。帝王切開既往女性が次子分娩様式の選択を自由にできるようになるには、帝王切開時の体験がより良いものとなること、全ての帝王切開既往女性とその家族が分娩様式の選択肢について公平な情報提供がされるようになること、入院中・産後に養育のサポートが得られることが必要である。